

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第 13 号 2016 年 6 月 発行

巻頭言

皆 様、お元気でお過ごしのことと存じます。
昨日まで千葉市で開催されていた第 52 回日本肝臓学会総会に出席しており原稿を書くのが遅れておりました。天候に恵まれ多数の参加者があったようです。私は幕張には初めて訪れました。幕張メッセという大きな展示場の隣が学会場でしたが、周囲は何もなく、新開拓地の佇まいでした。今年の学会は特に大きなトピックスはなく、一昨年より始まった DAA 経口治療による C 型慢性肝炎治療の実臨床での治療成績が多数発表されていました。相変わらず肝硬変と肝がんの分子メカニズム解析と治療法には進歩が乏しいのも事実であり、さらなる研究の必要性を感じました。がんの治療では免疫チェックポイント阻害剤が注目を集めており、肝がんにも使用できるようになるか期待されます。

さて、この度 5 月の下旬より肝胆膵内科医局が学舎 17 階に集合しました。これまでは 17 階の教授室、10 階の消化器内科(第 3 内科)医局、病院内の輸血部、南館などに医局員が分散しておりましたが、医学部から 17 階の西側スペースを与えられ、医局員がようやく一堂に会することができるようになりました。私も含めて医局員同



志は電話やメールによる連絡が主だったのですが、これからは直に顔をつきあわせて連絡相談できるようになります。より意思疎通が綿密になることが期待されます。また、4 月より 2 つの寄附講座も立ち上がりました。

今年も新人が入局、帰局しております。若手医局員の声をお楽しみください。

(河田則文)



Contents

巻頭言	1
学会・イベント開催報告	2
新入医局員・スタッフ紹介	3
寄附講座の紹介	4・5
トピックス	5
大阪市立大学医学部附属病院	
肝胆膵内科 外来表	6
facebook のご紹介	6
編集後記	6

学会開催報告



日本消化器病学会近畿支部 第103回例会

2015年9月26日(土)、大阪国際交流センターで日本消化器病学会近畿支部第103回例会が開催されました。1,100名を超える先生方にご参加いただき大変感謝いたしております。ありがとうございました。

イベント開催報告



おおさか I LOVE 肝ペーン ～ C型肝炎についてもっと知ろう!～

2015年8月1日、あべのハルカスで「おおさか I LOVE 肝ペーン～C型肝炎についてもっと知ろう!～」が開催されました。

おおさか I LOVE 肝ペーン Part2 ～ 今こそ、知って治そう C型肝炎!～

2016年4月29日、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)で「おおさか I LOVE 肝ペーン Part2 ～今こそ、知って治そう C型肝炎!～」が開催されました。

**第2回 世界肝炎デーイベント
Osaka Liver Festa**
*肝炎デーとは、肝炎のまん延防止を目的にWHOで定められた日です

日時 7月30日(土)
13:30～15:30

参加費 無料

申し込み 不要

場所 大阪市立大学医学部附属病院
先端予防医療センター MedCity21
(あべのハルカス21階)

内容

- ① 市民公開講座
肝臓専門医(大阪市立大学医学部附属病院)による肝炎の最新治療
- ② 肝臓の検査体験
肝臓硬度を(肝臓の硬さを測る検査)が実際に受けられる!
検査人数には限りがあります
(13:30～15:00の間に15分程度を体験いたします。体験を希望する方は事前予約をお願いします)
- ③ 栄養コーナー
フードモデルを使用した栄養評価を体験できます!

※検査には空腹時の検査結果を基にします
(たくさん食べている方が多い場合はご了承ください)
その後もぜひご自身の健康を大切にしてください

詳細は随時更新いたします。
大阪府立大学医学部附属病院ホームページを
ご確認ください。

大阪府立大学医学部附属病院HP <http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>
大阪府立大学医学部附属病院肝臓内科HP <http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/>
開催：一般財団法人日本肝臓病対策財団 大阪府立大学医学部附属病院
大阪府立総合医療センター 大阪府立十三市民病院 和歌山県立病院 市立和歌山病院
徳島 大阪府 大阪府

予告 世界・日本肝炎デーイベント 第2回 Osaka Liver Festa

参加費 無料
事前申し込み 不要

*肝炎デーとは、肝炎のまん延防止を目的にWHOで定められた日です

日時：7月30日(土)
13:30～15:30

場所：あべのハルカス21階(MedCity21)

内容：① 市民公開講座……肝臓専門医(大阪市立大学医学部附属病院)による肝炎の最新治療

② 肝臓の検査体験…肝臓硬度測定(肝臓の硬さを測る検査)が実際に受けられる!(検査人数には限りがあります)

③ 栄養コーナー……フードモデルを使用した栄養評価を体験できます!
など他にも盛りだくさんな内容を予定しています。

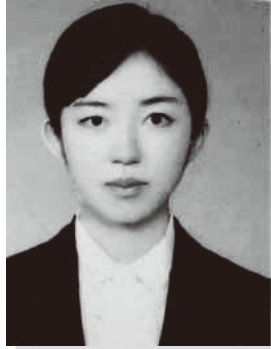
詳細は、当院ホームページをご確認ください

病院 HP <http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

肝臓内科 HP <http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/>

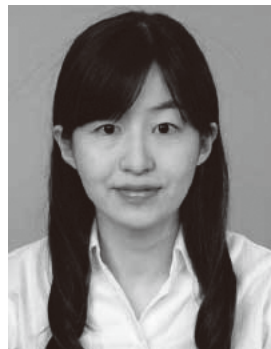
// 新入医局員紹介

前期研究医
岡田 雅子
(おかだ まさこ)



2 016年度新入局員の岡田雅子です。大阪市立大学医学部3年生の時に、実習の一環として、慢性肝疾患と血小板減少症に関する因子について少し研究のお手伝いをさせていただく機会があり、その時から肝臓という臓器に興味を持つようになりました。それをきっかけに、6年生の選択BSLで肝胆膵内科を選び、月日を経て今に至ります。今でも、興味は尽きることなく、新しい真実(?)や治療がでてくるたびに面白いと感じています。その一方で、医師3年目として責任ある診察・治療を行っていないのではないかと、不安と焦りで押しつぶされそうになることがあります。しかし、経験豊富な先生方に導かれ、少しずつ一人一人の患者さんに向き合えるようになってきました。今後、さらなる精進をすることで、患者さんにベストを尽くせる医師になりたいと思います。

前期研究医
湯川 芳美
(ゆかわ よしみ)



平 成24年大阪市立大学卒、卒後5年目の湯川芳美と申します。これまでは研修医として2年間、消化器内科医として2年間、和泉市にある府中病院で勤務しておりました。内科、消化器一般疾患に関する知識・技術はもちろんですが、「肝臓」という専門性をもった医師になりたいと思い、今年の4月に入局致しました。学生の頃から腹部エコーが好きで、今後は質の高いエコー検査を目指すこと、エコーガイド下処置にも積極的に取り組みたいです。4月から働き始め、「肝臓」は学べば学ぶほど興味深い臓器だと実感する毎日です。充実した日々を過ごせることに感謝しながら成長していきたいと思っています。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

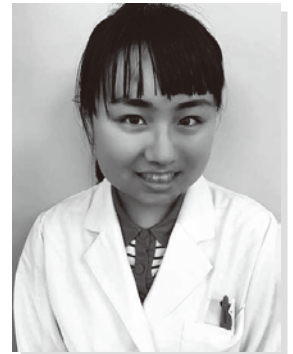
// スタッフ紹介

博士研究員
今井 咲
(いまい さき)



2 015年7月から博士研究員として勤務しています。生まれてから学位をとるまで福岡にいました。博多弁はあまり話せません。学位取得後3ヶ月ほど無職でしたが、流石にもう親の脛を齧ってられないと奮起し、気がつけばこちらにきて1年くらい経ちます。大阪弁はあまり分かりません。よろしく願います。

大学院生
吹田 安佐詠
(すいた あきえ)



2 016年4月から大学院生としてこちらの研究室でお世話になることになりました。今春大阪市立大学理学部生物学科を卒業し、臨床により近い所で勉強、研究したいと思いこの度入学しました。今までとは異なる環境でご迷惑をお掛けすることもあります。精一杯学んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

秘書
井阪 加珠
(いさか かず)



2 016年4月からお世話になってます。職場の雰囲気がとてもよく、毎日、楽しく働かせていただいております。大阪生まれの大阪育ちです。中学・高校はスキー部でした。体力には自信がありますが、仕事でご迷惑をおかけしないように精進してまいります。ご指導のほどよろしくお願い致します。

寄附講座の紹介

合成生物学寄附学講座

特任教授

吉里 勝利

(よしざと かつとし)

平 成28年4月1日から3年間の予定で大阪市立大学大学院医学研究科に「合成生物学寄附講座」を開設することになりました。この寄附講座は、大阪市立大学と(株)フェニックスバイオのご理解とご支持で、肝胆膵内科学講座の活動の一環として開設されましたので、この場をお借りして開設に至るまでの経過とどのような研究教育活動を目指しているのかについて紹介させていただきます。

私は広島大学に籍を得ていた頃、科学技術振興機構のERATO事業「吉里再生機構プロジェクト」を平成4年から9年まで5年間走らせました。当時は、微量のタンパク質のペプチドシーケンスを質量分析器で決定する方法(プロテオーム)が実用化され、ポストゲノム時代の幕開けを感じる時代でした。生命現象を直接担っているタンパク質を簡単に迅速に同定できるという興奮感です。肝臓の線維化には星細胞が深く関わっています。この細胞の活性化が線維化の主要な原因です。私はプロテオームの技術を「星細胞の活性化現象」の解明に利用しようと考え、これが大阪市立大学の河田先生との共同研究につながりました。この共同研究はサイトグロビンの発見という幸運を私達にもたらしました。

これが縁となり、広島大学退職後も、私が顧問しております(株)フェニックスバイオの支援を得て、大阪市立大学の客員教授として河田先生と共同研究を継続することになりました。この共同研究は今年で8年目になりますが、この間、成果も上がったので教育研究単位として独立したらどうかの話が持ち上がりました。この話しに対して大阪市立大学や(株)フェニックスバイオの方々賛同下さり半年という短期間の準備で開設に漕ぎ着けることができました。

講座名についてですが、「有機合成化学」という言葉は化学分野の一つの研究領域を表す言葉として市民権を得ており馴染みがあると思いますが、「合成生物学」という言葉は、未だ新しくどのような研究分野に対する言葉なのか具体的なイメージが湧かないのではないかと思います。実際、研究者組織としての「合成生物学会」もありませんし、研究者が各人各様にイメージして研究教育活動をしているのが現状と思います。“合成生物学的研究”は生物学の新しい方向を目指す動きで、これが大きな流れとなり、一つの学問研究分野として認知されるかどうか、“合成生物学的研究手法”でどのような成果

を上げることができるにかかっていると思います。

自然現象を研究する方法に二通りあります。一つはある自然現象を観察してどのような因子がその現象の現れに関係しているのかと問いかけ、その因子(現象を生み出している単位物質)を探し出しその性質を明らかにするという方法です。この方法は研究者が意識するまでもなく日常的に使っている方法で「分析的解析的方法」と呼べます。新しい因子の発見は研究者に大きな満足感を与えますが、当然のことながら、研究者には次なる疑問が生まれます。その因子がその現象の中で本当に重要な役割を果たしているのかという疑問です。この問題に答えを得る有力な方法が「loss of function法」と「gain of function法」です。遺伝子を例にとれば、ノックアウト法とトランスジェニック法です。私はこの方法論を考えた研究者の考え方の中に既に「合成生物学的」発想があると思います。私は、この考え方をもっと明確に意識して生命現象を理解しようとする生物学の学問分野として合成生物学をイメージしています。

人間が作った物(製作物)の性質の理解は簡単です。設計図(製作手順)を作り、必要な部品を準備し、それを設計図に従って組み立てると目指す物(製作物)が出来上がります。つまり、この製作物に関する情報は全てが既知ですから、その製作物の性質を理解するのに何の困難もありません。例えば、飛行機がその機能を果たす仕組みは明確にかつ正確に述べることができますし、飛行している環境が変化すると飛行機がどのような飛行をするか予言することもできます。

生命現象を生み出している単位は細胞です。この細胞を製作物と比較すると、細胞を理解することの困難が良く分かります。細胞は、自然が作った物ですから、細胞に関する情報は未だ未知だらけです。現在では、部品に関してはかなり多くの情報を得るまでになりましたが、肝心の設計図が分っていません。この設計図が不明であることが、細胞の完全理解を困難にしています。私は、合成生物学は「細胞の設計図を知ることを目指す学問研究分野」と考えています。

この講座は次の3人のスタッフでスタートしました：吉里勝利(特任教授)、松原三佐子(特任助教)、今井咲(博士研究員)。本講座の研究内容などを紹介するためにホームページを開設したいと考えています。今後、このホームページを介して他の研究者による合成生物学的研究や話題も紹介する予定です。

// 寄附講座の紹介

肝癌治療学寄附講座
特任准教授
矢田 豊
(やた ゆたか)



平 成 28 年 4 月より
勤務させていただい

ています。私は富山医科薬
科大学を卒業後、同大学院時代から肝線維化に関する研究に従事し、当時から肝線維化領域で国際的レベルの成果を発表されていた河田則文教授より直接的、間接的にご指導を頂いてまいりました。特に大学院時代、ラットの肝臓から肝星細胞を採取培養する手法を直接ご指導いただき、研究技術の向上だけでなく、その後の研究に対する姿勢についても多くを教えていただきました。

以後、基礎研究を Duke 大学、North carolina 大学 Chapell hill 校などで継続した後、臨床活動を富山大学第三内科、東京大学消化器内科を経て、群馬県済生会前橋病院、兵庫県公立宍粟総合病院などの市中病院で行ってまいりました。このたび、研究臨床両面で常に最先端の活動を行っている当教室にて肝癌治療に参画する機会をいただき、大変有り難く感じています。近年の肝炎、肝癌治療の進歩は目覚ましく、専門医療機関を受診いただくことで多くの最新情報や先進治療を受けることが可能です。肝癌のラジオ波治療や化学療法（肝動注化学療法、全身化学療法）など、肝癌集学的治療に積極的に取り組みたいと考えています。平日の大半は大学関連病院である阪和住吉総合病院消化器センターで肝臓病、消化器病診療に従事しており、肝臓病でお困りの際は、併せて阪和住吉総合病院を受診いただければと思います。

// 肝胆膵内科 トピックス What's New? [2015 年 4 月～2016 年 3 月]

- Mar 14: 河田教授の研究提案が AMED 平成 28 年度「肝炎等克服実用化研究事業」に採択されました
- Mar 2: 田守教授の HCV genotype に関する論文が Hepatol Res. に採択されました
- Jan 31: 田守教授の Chronic Hepatitis C に関する review が Mediators Inflamm. に採択されました
- Dec 21: 高田さゆり先生が 第 41 回日本肝臓学会西部会西部肝のポスター発表で若手奨励賞を受賞しました
- Nov 11: Le 先生の Cytoglobin に関する総説が Histol Histopathol に掲載されました
- Nov 5: 村上先生の miRNA と胆管癌に関する論文が Nature Scientific Report に掲載されました
- Sep 1: 河田教授が米国肝臓学会 AASLD の Fellow (FAASLD) に就任いたしました
- Aug 28: 河田教授が University College London の Visiting Professor に就任しました
- Jul 29: Le Thuy 先生の演題が AASLD 及び ISCHS の両方で Oral Presentation に選ばれました

大阪市立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表

	月	火	水	木	金
1 診	榎本 大	田守 昭博	河田 則文	榎本 大	田守 昭博
2 診	小塚 立蔵	打田 佐和子	森川 浩安	小塚 立蔵	村上 善基
3 診	元山 宏行	萩原 淳司	打田 佐和子	寺西 優雅	萩原 淳司
4 診	-	川村 悦史	川村 悦史	-	元山 宏行

大阪市立大学医学部附属病院 先端予防医療部附属クリニック MedCity21
総合診療エリア 肝炎・肝炎卒後 専門外来 のご案内【完全予約制】

☎ 06-6624-1324【月～金・9:00～16:30】

月： 9:00～12:00 (河田)

木： 13:00～16:30 (森川)

金： 13:00～16:30 (遠山)

肝胆膵病態内科学 facebook のご紹介



facebookを開設しました！

本年の3月から肝胆膵内科のFacebook を立ち上げました。医局のイベントや案内を定期的に載せていきますので、一度、ご確認ください。

URL :

<https://www.facebook.com/ocum.hepatology/>

編集後記

肝 胆膵内科は今年 10 年目を迎えます。
矢田豊先生、湯川芳美先生、岡田雅子先生を新たに迎え、医局員も少しずつ増えてまいりました。さらに、医局は 17 階に移転し、気分もリフレッシュ。2016 年度も医局員一同がんばっていきたいと思います。

OB の先生方のご支援もよろしくお願い致します。

(医局長 打田佐和子)

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第 13 号 2016 年 6 月 発行



発行者 / 大阪市立大学大学院医学研究科
肝胆膵病態内科学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL : 06-6645-3905 FAX : 06-6635-0915

編集委員 / 打田佐和子